

櫛形町文化財調査報告 No-18

# 町内遺跡試掘調査報告Ⅲ

— 狐塚古墳試掘調査他 —

1998

櫛形町教育委員会

## 序 文

櫛形町は甲府盆地の西部に位置し、櫛形山の山麓に発展した町であります。町内では2万年近くまえから人々の生活が始まり、以来長い歴史の中で常に陝西地方の中心として栄えてきました。

現在櫛形町では、町の総合的長期計画のもと、「美しい自然、美しい街なみ、美しい心」をスローガンに新たな世紀を目指した町づくりに、さまざまな施策を実施しています。また町内各所では、それらの諸施策に導かれて民間による開発事業も活発に行われております。

櫛形町教育委員会では、それらの諸開発実施に先だって、埋蔵文化財の保護をはかるため毎年国・県からの補助もいただき、埋蔵文化財の発掘調査を実施してまいりました。幸い、今回の調査においても多くの重要な事柄が発見され、従来の知見に加えられるべき新たな事実も確認されましたことは、本書に述べる通りです。この調査の結果が、地域を知り、地域の歴史に新たな事実を加える資料となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査にご理解をいただきました開発関係者の皆様、またご指導・ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げる次第です。

平成10年3月

櫛形町教育委員会  
教育長 藤巻 進

# 目 次

## 序 文

### 例 言(凡 例)

|     |                     |    |
|-----|---------------------|----|
| 第Ⅰ章 | 遺跡の概観               | 1  |
| 第1節 | 地理的環境               | 1  |
| 第2節 | 歴史的環境               | 1  |
| 第Ⅱ章 | 遺跡各節                | 3  |
| 第1節 | サンドラッグ出店予定地内試掘調査    | 3  |
| 第2節 | 個人住宅建設に伴う藤塚遺跡試掘調査   | 4  |
| 第3節 | 個人住宅建設に伴う八田畑A遺跡試掘調査 | 5  |
| 第4節 | 公園整備事業に伴う木遺跡試掘調査    | 6  |
| 第5節 | 狐塚古墳試掘調査            | 7  |
| 第Ⅲ章 | 結語                  | 11 |

### 引用・参考文献

### 報告書抄録

### 掲題目次

|     |   |    |
|-----|---|----|
| 第1図 | 遺跡位置図及び遺跡分布図 [1/25000]                      | 2  |
| 第2図 | 遺跡周辺地形図(1) [1/5000]                         | 3  |
| 第3図 | サンドラッグ出店予定地内試掘トレンチ位置図及びセクション図 [1/800・1/160] | 4  |
| 第4図 | 藤塚遺跡試掘トレンチ位置図及びセクション図 [1/300・1/30]          | 5  |
| 第5図 | 八田畑A遺跡試掘トレンチ位置図及びセクション図 [1/300・1/60]        | 6  |
| 第6図 | 木遺跡試掘トレンチ位置図及びセクション図 [1/1200・1/60]          | 7  |
| 第7図 | 遺跡周辺地形図(2) [1/5000]                         | 8  |
| 第8図 | 狐塚古墳周辺地形図 [1/400]                           | 9  |
| 第9図 | 藤塚古墳調査区全体図 [1/60]                           | 10 |

### 写真図版目次

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| 図版I   | 狐塚古墳 正面より                    |
|       | 同 側面(東側)より                   |
|       | 同 正面                         |
| 図版II  | 狐塚古墳 北東部控構                   |
|       | 同                            |
|       | 同(部分)                        |
| 図版III | 大型店舗予定地(往還東B道路)              |
|       | 第2トレンチ(同)                    |
|       | 第2トレンチ土層断面(同)                |
|       | 個人住宅建設予定地、第2トレンチ内ピット(八田畠A遺跡) |
| 図版IV  | 公園建設予定地 近景(木遺跡)              |
|       | 第4トレンチ(同)                    |
|       | 第1トレンチ(同)                    |
|       | 個人住宅建設予定地(藤塚遺跡)              |

### 例 言

1. 本書は、平成9年度におこなった櫛形町内埋蔵文化財一狐塚古墳試掘調査他一報告書である。
2. 本調査は、平成9年度文化財保存事業として、櫛形町教育委員会が文化庁・山梨県の補助を受けて実施した。
3. 調査にあたった組織・調査参加者は以下の通りである。
 

|       |                                      |
|-------|--------------------------------------|
| 調査主作者 | 櫛形町教育委員会 教育長 藤巻 道                    |
| 調査担当者 | 清水 博(櫛形町教育委員会 文化財主事)                 |
| 調査員   | 若林初美・小口妙子                            |
| 事務局   | 櫛形町教育委員会文化財係                         |
| 調査参加者 | 相川春美・桜田和子・桜田定子・桜田みえ・由井伴三・神田久美子・名取みよ子 |
4. 本報告書の編集は清水がおこなった。なお報告書作成にかかる業務分担は下記のとおりである。
 

|       |          |
|-------|----------|
| 第1~Ⅲ章 | 清水       |
| 図版作成  | 若林・神田・名取 |
| 写真撮影  | 清水       |
5. 発掘調査及び本報告書の作成にあたって、下記の諸氏・諸機関からご指導、ご協力をたまわった。記して謝意を表する次第である。
 

出月洋文・森原明廣(山梨県教育委員会学術文化財課)、新津 健(山梨県埋蔵文化財センター)、山梨県教育委員会学術文化財課、
6. 本調査によってえられた出土品、図面並びに写真等の諸記録は櫛形町教育委員会において保管している。

### 凡 例

1. 本書使用地図は、国土地理院発行の小笠原 1/25000 地形図である。
2. 造構測量図等現場において作成した図面はすべて国家基準第Ⅲ系によっている。
3. 造構測量図中の方位は磁北による。水系レベルは海拔高を示す。

# 第Ⅰ章 遺跡の概観

## 第1節 地理的環境

柳形町は、山梨県の西部中央に所在している。甲府盆地西部を北から南へ流れ降る釜無川以西の地域を陝西地方と呼ぶが、柳形町はその中央に位置している。甲府盆地の西方には巨摩山地が南北に連なるが、その主峰は大きく柳の形をとつて見える柳形山である。柳形町はこの山裾に発達した町で、町名も柳形山に由来している。

柳形町は、地形的に大きく3様に区分され、それぞれ極めて対照的な特徴を示している。町内西半部では柳形山が大きな山容を誇り、中央部はその東麓に発達した市之瀬台地が占めている。東半部は柳形山から流れ出た諸河川が造りだした扇状地となり釜無川の造る沖積地へと続いている。

柳形山を主座とする巨摩山地やその背後に連なる赤石山脈は、糸魚川一静岡構造線の一部をなし、柳形山腹には幾条かの断層崖地形が刻まれている。柳形山裾は標高500m程の傾斜変更線を経て市之瀬台地に続いている。

柳形山の東麓の抜ける市之瀬台地は、南北4km、東西2.5kmの扇形平面を呈し、標高は400~500mを測る。台地前面は比高差100~200mを有する下市之瀬断層崖を経て盆地床の扇状地へと至る。台地先端は、断層運動に伴って発達した小円頂丘がならび、この西側はなだらかな逆傾斜面を経て西方山麓に向かって順次高まっていく。この市之瀬台地上面には、北から高室川・深沢川・漆川・市之瀬川・秋山川等が流れ侵食地形を刻んでいる。

柳形山を源とするこれら諸河川は、急激な勾配で流れ下り、盆地床に至ると大量の土砂を堆積させて谷の出口から扇状地を造る。陝西地方には、幅10km長さ7km以上に及ぶ御動使川の大扇状地があり、その扇状地ではこれら諸河川の造った小扇状地と相まって複雑な「複合扇状地」をなしている。これらの扇状地にあたる一帯は、ところによっては1~2mにも及ぶ厚い扇状地堆積物に覆われた、極めて地下水位が低く水に乏しい乾燥地である。

地下に滲みこんだ水は扇端部で再び湧き出し、若草町の鏡中条・十日市場、甲西町の江原・鮎沢等と弧状に連なる湧水列をなしている。この湧水列から低位は水の豊富な一帯となり、釜無川の形成する氾濫原へ続いている。

## 第2節 歴史的環境

平成元年度に実施された遺跡詳細分布調査によれば、町内には239ヶ所の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)が確認されていたが、遺跡の数は現在では260ヶ所にのぼっている。遺跡は主要には台地上に認められるが、柳形山中の平坦面にも縄文時代を中心とする遺跡がわずかながら確認されている。また、最近の甲西バイパスに伴う事前調査等によって、扇状地や沖積地においても厚い堆積土の下から弥生時代中期にまで遡る多くの遺跡が発見されている。

町内で最も古い遺物は旧石器時代のもので、県内でも古い時代から人々の生活の場であった。

この台地上では以来、縄文時代・弥生時代を通じて遺跡が営まれており、特に縄文時代中期(長田口遺跡・東原B遺跡・中畠遺跡)、弥生時代終末(六科丘遺跡・上の山遺跡・古屋敷遺跡)等の良好な遺跡が点在する地域である。また台地の先端部には幾つかの前期古墳(物見塚古墳・六科丘古墳)が連続して築造され、この時代の地域的中心であったことを示している。

一方扇状地では、台地裾部を中心に縄文時代・弥生時代の遺跡(曾根遺跡・錦物師屋遺跡)が確認され、錦物師屋遺跡からは重要文化財に指定された良好な資料が出土している。古墳時代の遺跡は台地裾部(曾根遺跡)や扇端部の湧水列に沿って認められる程度であるが、平安時代になると町内全域に遺跡が営まれ、扇状地内にも本格的に遺跡が進出する。しかし、前述した甲西バイパスに伴う調査によって、沖積地や扇状地の厚い堆積層の下部から方形周溝墓(十五所遺跡)や弥生期の水田路、古墳時代前半の大集落跡(村前東遺跡)等が確認され、該地に於ける歴史の見直しを追とともに、扇状地内に於ける開発行為に対しても注意を喚起するものとなった。

律令体制下では、本町南部から甲西町・増穂町にかけては巨摩郡九郷の一つとして記載されている「大井郷」に比定されている。律令体制の崩壊後、本町付近は甲斐源氏一族が居館を定めた地である。小笠原小学校付近は小笠原氏の祖、小笠原長清の館跡と伝えられる。上野の椿城をはじめ、町内には中世以後の伝統や文化を伝える山城(中野城・篠塙)や社寺・石造物が各所に残されている。



- A. 往還東B B. 藤塚 C. 八田畠A D. メ木 E. 狐塚古墳  
 1. 永面 2. 宮原 3. 吉田西原A・B 4. 赤面 5. 鼠作 6. 東畠C 7. 東畠B  
 8. 東畠E 9. 大新井G 10. 東畠F 11. 神明B 12. 神明A 13. 無名墳 14. 御崎神社古墳  
 15. 曾根 16. 西原 17. 八田畠B 18. 佐小笠原氏館 19. 若宮 20. 東原B 21. 六科丘古墳  
 22. 六科丘 23. 長田口 24. 中畠 25. 久保田A 26. 石原田 27. 宝珠寺西 28. 鎔物師屋古墳  
 29. メ木 30. 鎔物師屋 31. 物見塚古墳 32. 上ノ東 33. 上の山 34. 椿城 35. 東久保A  
 36. 古屋敷 37. 下宮地 38. 村内 39. 西川 40. 住吉 41. 十五所 42. 吉田西原D  
 43. 村前東原A 44. 二本柳 45. 白河東 46. 油田 47. 中川田 48. 大師東丹保

第1図 遺跡位置図及び周辺遺跡分布図 [1/25000]

## 第Ⅱ章 遺跡各節

### 第1節 サンドラッグ出店予定地内試掘調査

#### 1) 調査に至る経緯と目的

サンドラッグでは櫛形町桃園字雨ヶ久保において出店を計画し、町教育委員会に埋蔵文化財の有無及び取扱いについて問い合わせた。同予定地は埋蔵文化財包蔵地の範囲には含まれていなかったが、道路を隔てて往還東B遺跡に近接しており、店舗の規模も駐車場を含め3,600m<sup>2</sup>を測るものであったため、町教育委員会では確認のため試掘調査が必要な旨回答し協力を依頼した。両者において協議し、店舗建築日程の関係上年度明け早々に試掘調査を実施し、本調査については試掘調査の結果を参考に再度協議する事とした。

調査地所在地 山梨県中巨摩郡櫛形町桃園字雨ヶ久保1716他

調査期間 平成9年4月14日から18日

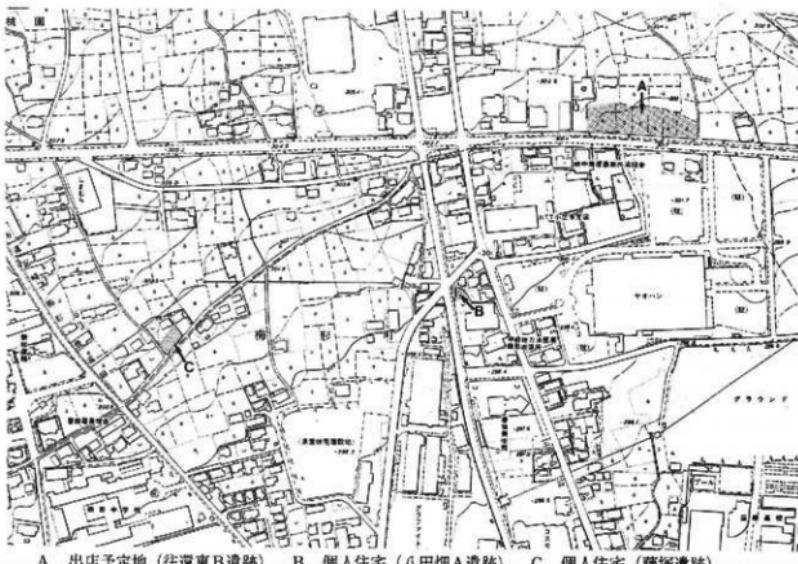
調査面積 260m<sup>2</sup>

#### 2) 調査地の位置と遺境

出店予定地は、櫛形町桃園地内の町道7号線沿いにあり近年市街地化が進んでいるところである。桃園を含む櫛形町北半部は御勅使川の造るべき大きな複合扇状地にのり、当該地は扇状地上で北西から南東へのびる微高地の縁から谷状地にかかる位置にある。この扇状地上は、近年甲西バイパスに伴う調査<sup>※1</sup>、各所の試掘調査<sup>※2</sup>などによつて遺跡が確認されつつあり、また遺構は確認されなかったものの、土壤の安定した箇所から弥生期まで遡る遺物も発見されており、注意を要する地域となっている。

#### 3) 調査の方法と経緯及びその成果

出店予定地の規模は約3,600m<sup>2</sup>で、西半部が建物、東半部は駐車場の予定であり、駐車場については50cmの土盛



第2図 遺跡周辺地形図(1) [1/5000]

りを施すこととなっていた。そのため建物部分（西半部）を中心に試掘トレンチ4本、試掘グリッド5ヶ所を設定した。各々の規模は $2 \times 35\text{m}$ （2本）、 $2 \times 22\text{m}$ 、 $2 \times 16\text{m}$ 、 $3 \times 3\text{m}$ である。トレンチは基本的に南一北、東一西方向に設定したが果物を避けるためやや蛇行している。調査は重機で1mほど耕土した後、人力で掘下げ精査した。調査区中央から西半部では地表下60~80cmに再堆積ロームを主体とする暗茶褐色土層がバンド状に認められたが、全体的には耕作土の下は礫、砂礫層が互層となって堆積していた。遺構や良好な遺物は認められなかった。また、第1・2トレンチ中央部で幅4~6mの溝状の落ち込みが検出された。これは耕作土直下から切り込んでおり、覆土の状態からもかなり新しい時期の流路の痕跡であろう。

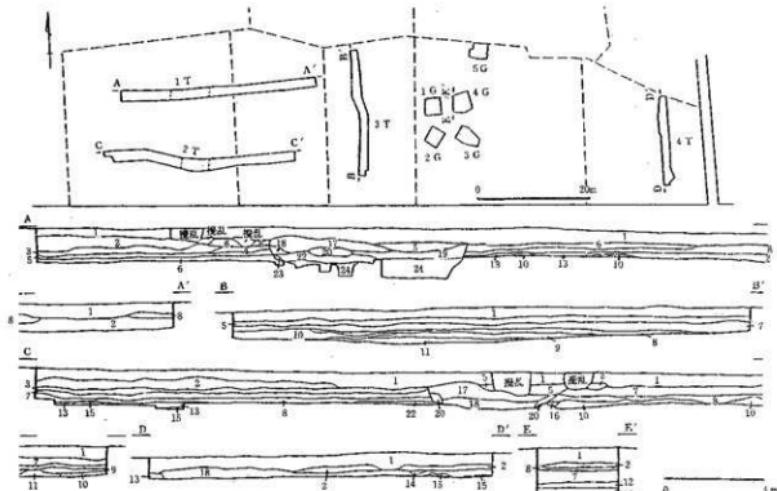


図3-4 サンドラッグ出店予定地内試掘トレンチ位置図及びセクション図  
[1/800-1/160]  
第1層 耕作土  
第2層 磕層 (粗礫大粒主体、小豆大粒含む)  
第3層 砂層 (粗粒の漂石・礫層が部分的に入る)  
第4層 暗茶褐色砂質土層 (粘性無、柔らか砂質粘土、小礫、ローム粒を含む)  
第5層 暗茶褐色土層 (粘性有、柔らか小粒、しまりや有、黄褐色ローム粒入り)  
第6層 暗茶褐色土層 (粘性有、しまりや有、再堆積ローム粒入り)  
第7層 暗茶褐色土層 (粘性無、しまりや有、再堆積ローム粒入り)  
第8層 暗茶褐色土層 (粘性無、しまりや有、再堆積ローム粒入り)  
第9層 砂礫層 (粗礫大粒主体、形成層を含み、部分的に第8層の茶褐色土層がプロット)  
タブレット入り  
第10層 砂礫層 (拳丈程土層)  
第11層 砂層 (小豆大粒主体、部分的に第10層がブロック状に入る)  
第12層 暗茶褐色土層 (粘性有、しまりや有、ローム粒を含む)

第13層: 暗茶褐色土層 (粘性無、しまりや有、再堆積ロームに砂粒が多混入)  
第14層: 砂層 (粗礫大、小豆大粒含む)  
第15層: 暗茶褐色土層 (粘性有、しまりや有、再堆積ロームに砂粒が混入、小豆大粒多混入)  
第16層: 暗茶褐色土層 (粘性無、しまりや有、粗礫大粒混入)  
第17層: 砂層 (拳丈程土層、粗礫大粒入り)  
第18層: 暗茶褐色土層 (粘性無、しまりや有、子貝の貝殻混入)  
第19層: 砂礫層 (粗礫大粒主体、拳丈程土層)  
第20層: 砂層 (粗礫大粒主体、拳丈程土層)  
第21層: 砂層 (粗礫大粒主体、拳丈程土層)  
第22層: 砂礫層 (粗礫大粒主体)  
第23層: 砂層 (粗礫大粒主体、拳丈程土層)

## 第2節 個人住宅建設に伴う藤塚遺跡調査

### 1) 調査に至る経緯と目的

柳町桃園字東原に於いて藤塚遺跡の北側縁辺部に個人住宅の建築が計画された。同遺跡は平成8年度においてその一部をケア・ハウス建築のため試掘調査<sup>20</sup>を実施しており、遺構の発見には至っていないかった。しかし弥生中期に遡る遺物が出土していたため原因者の協力をいただき、遺構・遺物の存在を確認するため町教育委員会において試掘調査を実施することとした。

遺跡所在地 山梨県中巨摩郡柳町桃園字東原1478-30・31

調査期間 平成9年6月17日から18日

調査面積 8m<sup>2</sup>

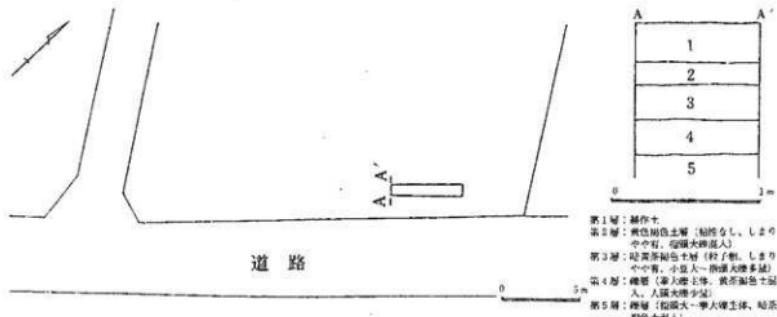
## 2) 調査地の位置と環境

本建設予定地は、櫛形町桃園地内にあり櫛形町立櫛形中学校に近接している。現在は削平されているが、かつては「ふじつか」とよばれる塚が存在したと伝えられ、字名の由来となっているが、おそらく富士塚であったと考えられる。

櫛形町の東半部は、御動使川のつくる大きな複合扇状地となり、全般的に厚い礫層におおわれている。しかし、甲西バイパス建設に伴う調査等によって多くの遺跡が確認されている。本遺跡の周辺でも3~4ヶ所の遺跡が試掘調査され、遺構や目立った遺物は確認されなかったものの、土壤の安定した箇所や若干の遺物が出土しており、弥生期の条痕紋系の土器片もえらわれている。

## 3) 調査の方法と経緯及びその成果

前述した平成8年度に於ける試掘調査では地表下1m程から土器片が出土していた。今回は個人住宅であり基礎は50~80cmしか掘削しないことであり、浄化槽として深掘りを行う部分を中心に8m<sup>2</sup>試掘した。2×4mのグリッドを設定し、人力で1m掘り下げた。表土層の下位に黄褐色土が存在するが、地表下70cmから下位は砂礫層となっており遺物等も確認しえなかたため調査を完了した。



第4図 藤塚遺跡試掘トレンチ配置図及びセクション図 [1/300・1/30]

## 第3節 個人住宅建設に伴う八田畠A遺跡試掘調査

### 1) 調査に至る経緯と目的

櫛形町小笠原字八田畠に於いて個人住宅の建築が計画された。同地は八田畠A遺跡の南側縁辺部にあたり、近辺の試掘調査<sup>※1</sup>においても遺物が出土していたため原因者の協力をいただき、町教育委員会において調査を実施することとした。

遺跡所在地 山梨県中巨摩郡櫛形町小笠原字八田畠1313-12

調査期間 平成9年8月25日から29日

調査面積 16m<sup>2</sup>

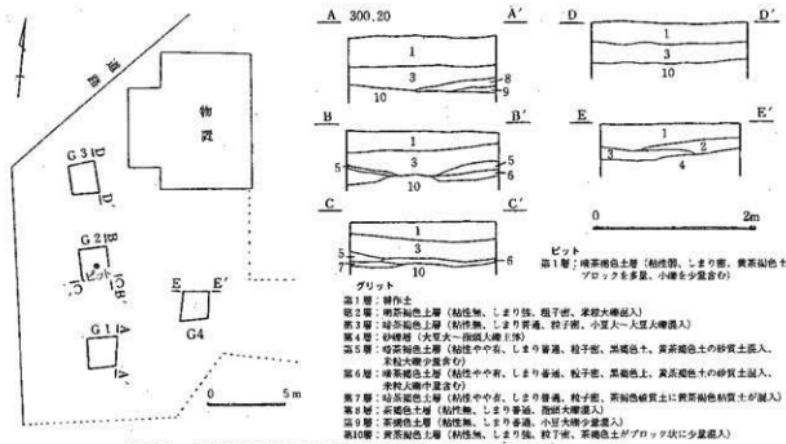
### 2) 調査地の位置と環境

住宅造成地は、櫛形町小笠原地内の町道横北8号線と国道52号線に挟まれており、周囲は既に市街地化が進んでいるところである。同地は御動使川の造る大きな複合扇状地上にあり、当該地は扇状地上で北西から南東へのびる微高地上にある。この扇状地上は、町内遺跡分布調査<sup>※2</sup>などによれば良好な遺跡は確認されなかったが、ヤオハン出店時の試掘調査<sup>※3</sup>で遺物が認められた地点と国道を挟んで近接している。またこの扇状地上では過去数年間の試掘調査によれば上層の安定した箇所から弥生期まで通る遺物も発見されており、注意を要する地域となっている。

### 3) 調査の方法と経緯及びその成果

建物建築用地内に4ヶ所のグリッドを設定した。グリッドの規模は4×4mで、南北に3ヶ所を設定し第1～第3グリッドと呼称し、やや東に1ヶ所第4グリッドを設定したが、果物の関係上、ややずれている。建物基礎の深度が50cm程度であるため、現地表下50～60cmまで人力で掘下げつつ精査した。20～30cmの耕作土の下位は疊混入土層が堆積しているが、第1～3グリッドでは現地表下60cm程度で堆積ロームを主体とする土層(第10層)を確認した。そのため10層上面を精査したところ第2グリッド中央から径30cmの小ピット1基を検出したが、その他には遺構、遺物を確認できなかったため調査を終了した。第4グリッドでは地表下40cmから下位は砂礫層であった。

今回確認した安定した土層(第10層)は、町道横北8号線を挟んで北西方向にあたる八田畠A遺跡主体部に続くものであろう。



第5図 八田畠A遺跡トレンチ配置図及びセクション図 [1/300・1/60]

## 第4節 公園整備事業に伴うメ木遺跡試掘調査

### 1) 調査に至る経緯と目的

柳町では、昭和62年度から平成5年度まで2期にわけ町内下市之瀬字メ木本地内に工業団地の造成を行った。町では平成9年度に、工業団地の東端部に「メ木ふれあい公園」の造成を計画し町教育委員会に埋蔵文化財の有無等について問合せられた。同地は工業団地の造成に伴って発掘調査を実施<sup>\*\*</sup>しており、出土した縄文時代の遺物は平成7年度に重要文化財に指定<sup>\*\*</sup>されている。そのため教育委員会では、事前の調査が必要な旨回答し両者で協議を行うこととした。教育委員会では、町から示された造成計画図を元に現地を踏査したところ、造成面積約11,000m<sup>2</sup>の内10,000m<sup>2</sup>については、昭和30年代に行われた漆川の改修時に土地の改変・土盛が行われており、原地形が観察できる部分は造成予定地の北西部約1,000～1,500mにすぎない事が確認された。また事業自体も地形の改変を行わない事を基本としていたため、とりあえず原地形が残る部分を中心に試掘調査を実施し、遺構・遺物が確認された場合、再度協議することとした。

遺跡所在地 山梨県中巨摩郡柳町下市之瀬字メ木1253他

調査期間 平成9年11月27日から29日

調査面積 194 m<sup>2</sup>

### 2) 遺跡の位置と環境

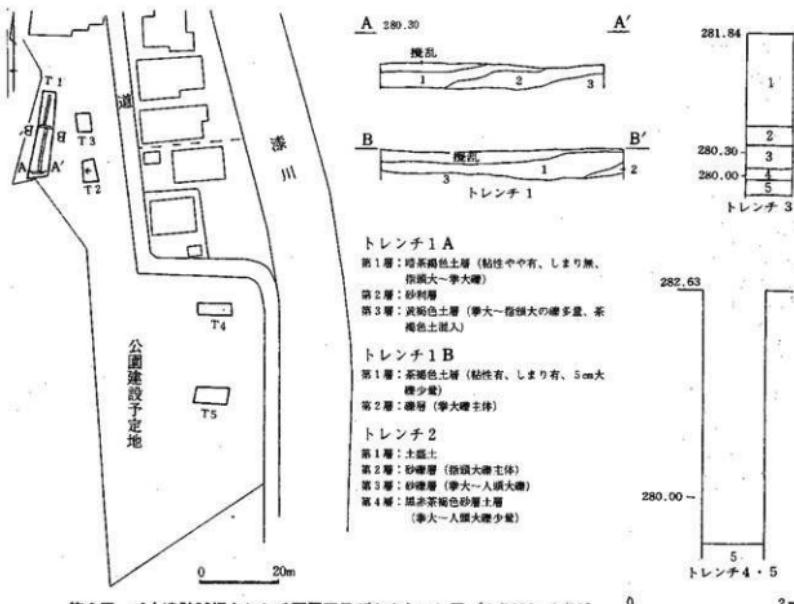
メ木遺跡は柳町下市之瀬に所在し、柳町の南縁部に位置する。遺跡の所在する一帯は御動使川の複合扇状

地の南西部にあたる。東に漆川と南に市之瀬川に挟まれ、両者の合流点付近である。北西から南東に向かって緩やかに傾斜しているが、河川に沿った部分は自然堤防状の僅かな高まりを示している。今回の造成予定地はこの東端部で漆川からは20m程の距離を隔てるのみである。微地形的には自然堤防から後背地にかかる部分にあたる。

### 3) 調査の方法と経緯及びその成果

前述したように造成予定地の殆どは既に土盛りを施されていたため、本来の地形のこる部分を中心に5本の試掘トレンチを設定した。トレンチの規模は各々22×4m、5×4m（2本）、4×8m（2本）である。第1～第3トレンチは南北方向に、第4・5トレンチは東西方向に設定した。第1～第3トレンチは原地形が残る部分に、第4・5トレンチは土盛り部分に設定した。各々重機によって表土を排土し後人力で精査した。第1トレンチでは薄い擾乱土の下位が砂礫層となり、地表下30cm程度メ木遺跡発掘時の遺構確認面である黄褐色含礫土層にあたったため精査を行ったが、数点の土器片をえたのみであった。第2・3トレンチでは予想に反し、現地表下1.2mまで盛土がなされ、その下位も礫・砂礫層が互層となっていた。第4・5トレンチでは土盛りの下位を確認するため重機によって排土したが、現地表下4m以上に亘って土盛りがなされ、その下部は暗茶褐色砂質土層となっていた。

この造成地では、北西部のごく一部、約500m<sup>2</sup>程が原地形を止めていたのみで遺構や良好な遺物を発見する事はできなかった。



第6図 メ木遺跡試掘トレンチ配置図及びセクション図 [1/1200・1/60]

### 第5節 狐塚古墳試掘調査

#### 1) 調査に至る経緯と目的

狐塚古墳は柳町下市之瀬字切付に所在する。下市之瀬から西方をみあげた上野山丘陵の先端には甲府盆地西部では唯一の前方後円墳である物見塚古墳<sup>\*\*</sup>が占地し、本古墳の周囲も昭和39～40年に文化財保護委員会が行つ

た分布調査<sup>10</sup>によると、かつては10基程の古墳が確認されていたが、現在では2基が存在するにすぎない。本墳から南西へ260mには鎧物師屋古墳が存在したが昭和29年に農道開設に伴って失われた<sup>11</sup>。また下市之瀬字メ木から甲西町塚原にかけては積石塚古墳を中心とする後期群集墳が集中する地域とされていた<sup>12</sup>が、現在確認できるものは上村古墳1基<sup>13</sup>にすぎない。付近で確認される後期古墳は数基にすぎず、発掘調査をうけ内容を把握したものは全くないのが現状である。

町教育委員会においても、メ木遺跡の発掘時から付近における古墳の存在には注意を払い、その内容を把握する事に努めてきた<sup>14</sup>。また、本墳から600mほど南に所在する鎧物師屋遺跡から出土した縄文時代の土偶や土器が平成7年度に重要文化財に指定されたこともあり、地域では埋蔵文化財に関する認識・興味が高まっていた。そこで町教育委員会では、地域の歴史や文化を明らかにし町民の地域への意識を高めるためにも、残されている古墳の調査を計画した。狐塚古墳は、地元宗林寺の所有地であったため、同寺・同寺檀家の皆さんの理解と協力をえるなかで、今年度は古墳の概要と遺存状態を把握し今後の調査の方法を探るための基礎的調査を実施することとした。

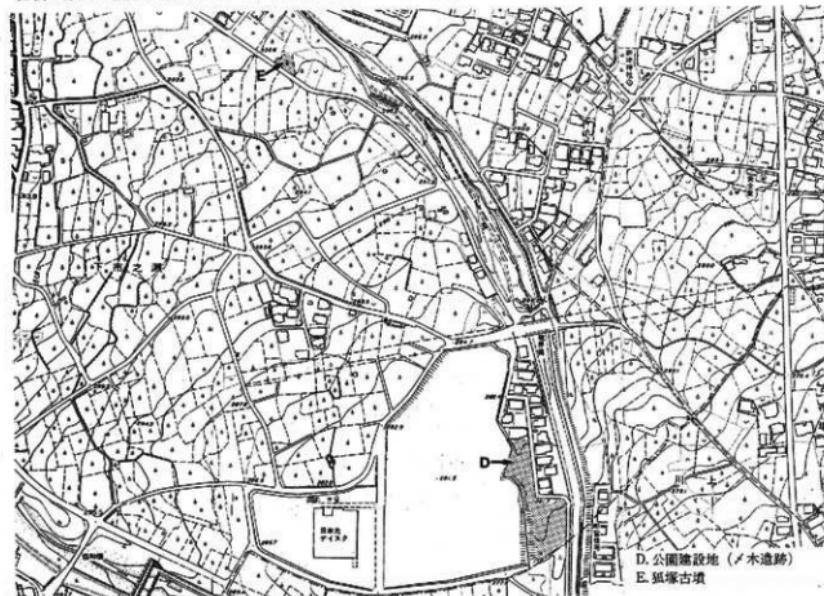
古墳所在地 山梨県中巨摩郡櫛形町下市之瀬字切付1430-7他

調査期間 平成9年12月8日から24日

調査面積 148m<sup>2</sup>

## 2) 古墳の位置と環境

狐塚古墳は櫛形町下市之瀬字切付に所在し、櫛形町の南縁部に位置する。古墳の所在する一帯は御勅使川の複合扇状地の南西端部にあたり北西から南東に向かって緩やかに傾斜している。東に漆川と南に市之瀬川に挟まれ、本古墳は漆川の左岸に位置している。前述したようにかつて確認されていた10基程の古墳は漆川の両岸に認められ



第7図 遺跡周辺地形図 (2) [1/5000]

たものである。河川に沿った部分は自然堤防状の僅かな高まりを示し、本壇もその上に占地するようにみえるが、厚い扇状地堆積物のためこの地形が古墳築造時まで遡りうるかは明確にしえない。

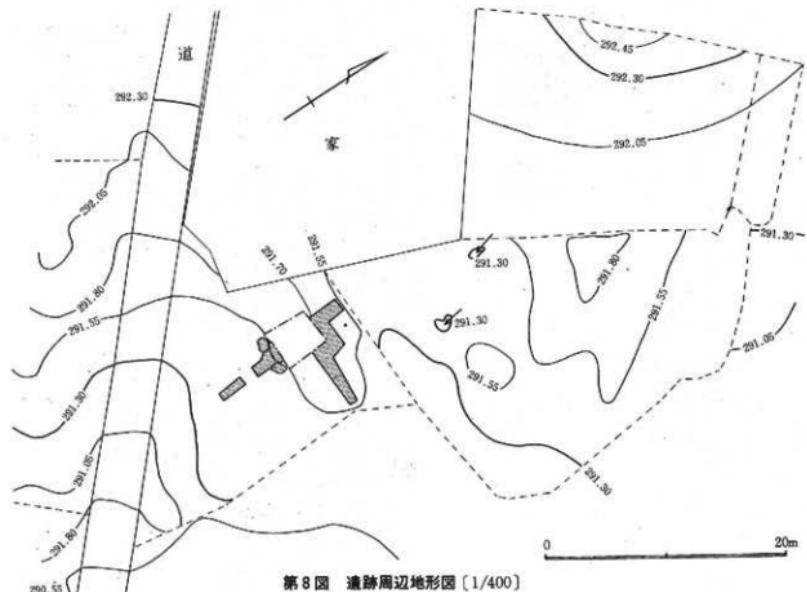
この狐塚古墳のある畑は周囲の地割りに比べ20~25cm程高まっており、周囲にも何カ所か微高地状の高まりを視認しうる。これを古墳の存在を示すものとしむるか否かは断定しえないが、その可能性は否定しえない。

### 3) 古墳の現状

狐塚古墳の周囲は厚い扇状地堆積物に覆われ、狐塚古墳も天井石のレベルまで土砂が堆積している。また天井石上部は石が積直され、内側に小礫・小砂利を充填しその上には稻荷社が祭られている。つまり一見すると、平坦な地表面に一辺3~4mで高さ60~70cmの方形の石垣が組まれその上に稻荷が祭られる形になっている。しかしその南側では幅2m、厚さ50cm以上の巨石が石垣からつきだして稻荷への階段の役割りを果たし、この両脇下には1×1mの石がそれを支える様に組まれていた。おそらく階段様の巨石が石室玄門部の天井石で、その左右の組石が渡戸側壁の最上部にあたるものと考えられた。従って天井石のレベルまでは土砂で埋まり、その上部の墳丘は既に流失しているものであろう。

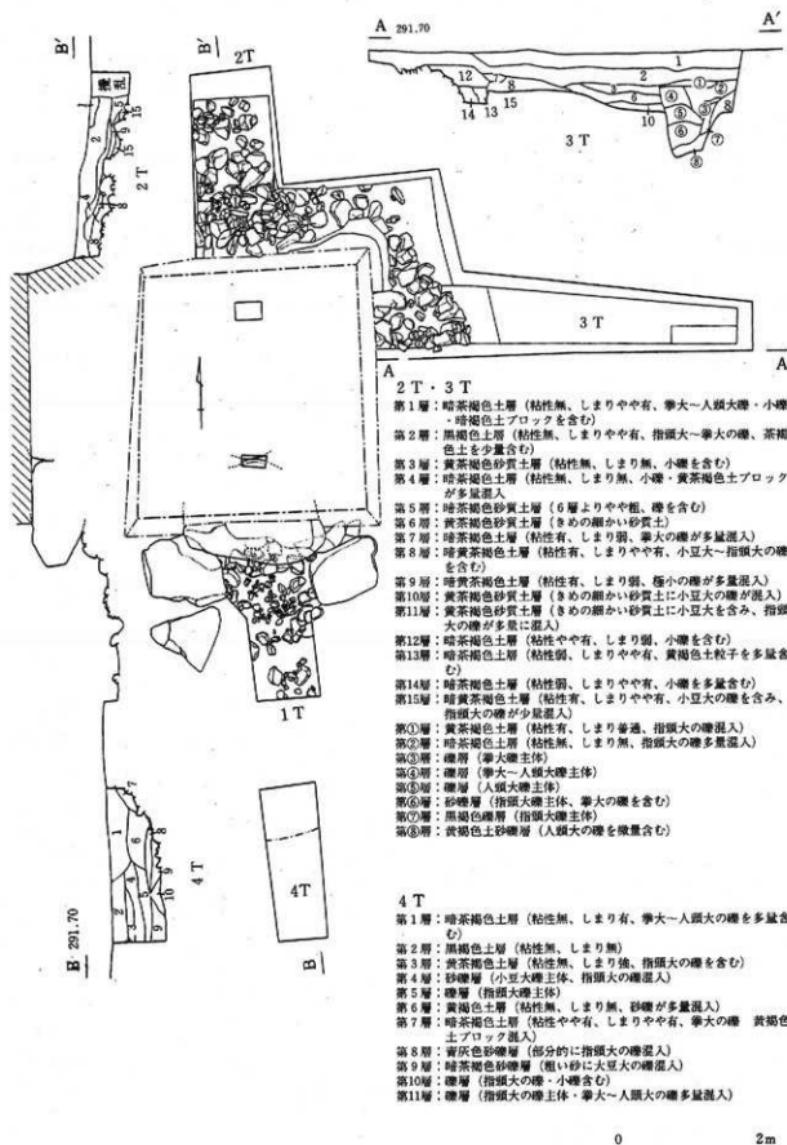
古墳の周囲には、1×2m程の石が3個ほど認められ石室構築材の一部であろうとも考えられた。また宗林寺の住職によれば、昭和6年に寺に首題塔を建てる際にこの稻荷の下から長さ2m以上の石材を持ち出して利用したとのことで、石室の一部は既に破壊されている可能性が高い。

なお、所有者である宗林寺によれば、この稻荷は現在地に古くからあったものを江戸時代(安政6年)に京都から寿福院徳殊稻荷大明神の称号をもってきたもの、とのことである。



### 4) 調査の方法と経緯及びその成果

今年度の調査は、古墳の概要と遺存状態を把握し今後の調査の方法を探るための基礎的調査であった。そのため石垣前部の玄門部と考えた箇所に1本(第1トレンチ)、石垣の背後に1本(第2トレンチ)、石垣右に1本



第9図 狐塚古墳調査区全体図 [1/60]

(第3トレンチ)、を設定しさるに第1トレンチ前の狭道から前庭部と思われる箇所に1本(第4トレンチ)と計4本のトレンチを設定し人力で掘り下げた。

① 第1トレンチ

1×2m程である。当初この部分は石室が開口し、後崩落或いは埋まったものと考えた。従ってこの部分を排土したのち石室内部を観察しその遺存状態を確認する予定であった。しかし、稻荷社整備のために敷いたと思われる小砂利混じりの表土を排土すると、天井石の下から拳大から子供の頭大の礫が積上げられた状態で検出された。その幅は約1mに亘っており、封鎖石がほぼ完存しているものと考えられた。

② 第2トレンチ

1×2.5m程である。表土を排土したところ現地表下20cm程で石室控積みを検出した。次項で述べる控積みの外周との接続を追求したが、上部が崩落していたため明確にしない。第3トレンチから延長するラインとさらにその外側60cmにも外郭ラインがあるようにも見られたが本調査の成果を待ちたい。

③ 第3トレンチ

1×5m程である。表土を排土したところ現地表下20cm程で石室控積みを検出した。人頭大の礫を積上げたもので、側壁の想定されるラインから1m以上外側に石垣状に石を積み、側壁との間隙を石材で満たしていた。また石垣状ラインからさらに30cmほど外側に6・12層を切って落ち込みのラインが確認され、控積みはその落込みの内部に構築されるように観察された。この6・12層は粘度の高い暗茶褐色土で埴丘盛土であろう。石垣状のラインが控積みの外周を示すと考えられたため、稻荷社のるる石垣にそってラインを追求しつつ第2トレンチまで調査区を拡張した。控積みの外周は、幅をせばめつつ延び玄門部から約5mで直角に曲がっている。

本トレンチ東端部で幅1m、深さ1.5mの溝状の落込みを検出したが断面観察から後世のものと判断された。

④ 第4トレンチ

1×2m程である。第1トレンチ前の狭道及び前庭部を確認するために設定した。この部分はかって稻荷社の坪殿がたてられていた場所で擾乱が激しかった。地表下30cmほどから、トレンチの古墳側から南へ向かって降る様に拳大から人頭大の礫が多量に認められた。検出状況から人為的に積んだものではなく、古墳からの崩落と考えたい。トレンチは、現地表下60cmまで掘削したが、古墳築造時の旧地表面は確認しえなかった。

最後に稻荷社が祭られている方形の石垣上に20×50cmの小グリッド2ヶ所を設定した。一方は石垣前端から60cm、他は240cmである。前者では、15cm掘り下げたところ天井石を検出し、ちょうど1枚目の天井石と2枚目もそれとの接続部であったため、天井石の大きさと枚数を想定する事ができた。後者では天井石を検出する事ができず、石垣内側に充填した小礫・小砂利を確認したのみであった。

以上から、今回の試掘調査の成果と課題をまとめると以下の様である。

- ① 天井石より上部の埴丘を失うが以下は現地表下に遺存し、埴丘規模は半径6~7m以上と想定される。
- ② 石室(玄室)規模は幅2~3m、長さ4~5mであろう。天井石は3枚と考えられるが、奥壁側の1枚は失われた可能性が高く、側壁も石室奥部の一部は壊れている可能性がある。
- ③ しかし、石室下半部(2/3以上)は完存するものと思われる。
- ④ 埴丘規模、石室の遺存度は確認できず、今後の調査方法も含め来年度の課題である。

## 第Ⅲ章 結語

今年度の町内遺跡の調査は以上5ヶ所を行った。その内容は以上述べた所であるが、本調査に至るものはなかった。しかし町内の遺跡の全体的な把握に新たな知見を示すものとなった。

狐塚古墳については、予想以上に遺存度の良い事が確認され、大まかな規模については把握することができた。一部の破損状態が未だ明確にしえなかつたため、来年度さらに試掘調査を重ねる必要性が確認されたが今後の調査に期待されるところが大である。

## 引用・参考文献

- 註1 山梨県教育委員会 1994 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第90集『村前東A遺跡概報1』  
同 1995 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第108集『村前東A遺跡概報2』  
同 1996 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第112集『村前東A遺跡概報3』  
同 1997 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第134集『村前東A遺跡概報4』  
同 1995 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第104集『十五所遺跡概報1』  
同 1996 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第113集『十五所遺跡概報2』  
同 1997 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第128集『十五所遺跡概報3』
- 註2 櫛形町教育委員会 1989 櫛形町文化財調査報告No7 「大畠遺跡」  
同 1993 櫛形町文化財調査報告No10 「柿平土地区画整理事業地内試掘調査報告」  
同 1995 櫛形町文化財調査報告No13 「柿平B遺跡」  
同 1996 櫛形町文化財調査報告No15 「町内遺跡試掘調査報告」  
同 1997 櫛形町文化財調査報告No16 「町内遺跡試掘調査報告II」
- 註3 櫛形町教育委員会 1997 櫛形町文化財調査報告No16 「町内遺跡試掘調査報告II」
- 註4 註3に同
- 註5 櫛形町教育委員会 1990 櫛形町文化財調査報告No8 「町内遺跡詳細分布調査報告書」
- 註6 同 1995 櫛形町文化財調査報告No13 「柿平B遺跡」
- 註7 同 1987 櫛形町文化財調査報告No5 「メ木遺跡」
- 註8 文化庁文化財保護部 平成7 月刊文化財 7月号 第1法規出版株式会社
- 註9 櫛形町教育委員会 1983 「物見塚」
- 註11 同 1989 櫛形町文化財調査報告No11 「鎧物師屋古墳」
- 註12 櫛形町誌刊行委員会 1966 「櫛形町誌」
- 註13 文化庁文化財保護部 昭和56 全国遺跡地図 19 山梨県 (財) 国土地理協会
- 註14 註6に同

図版 I



孤塚古墳  
正面より



同  
側面（東側）より



同  
正面

図版 II



狐塚古墳  
北東部挖積



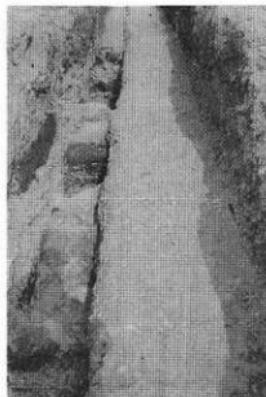
同



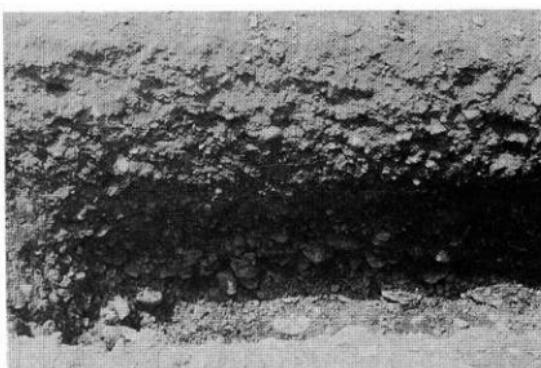
同（部分）



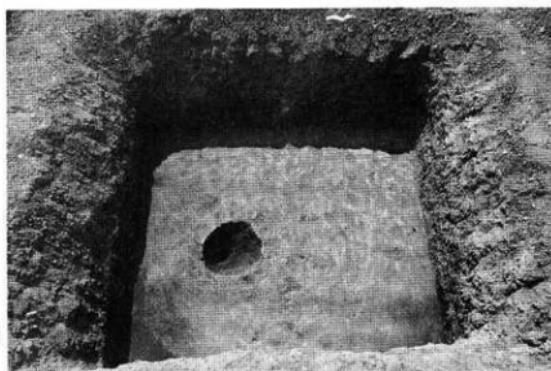
大型店舗予定地  
(往還東B遺跡)



第2トレンチ（同）

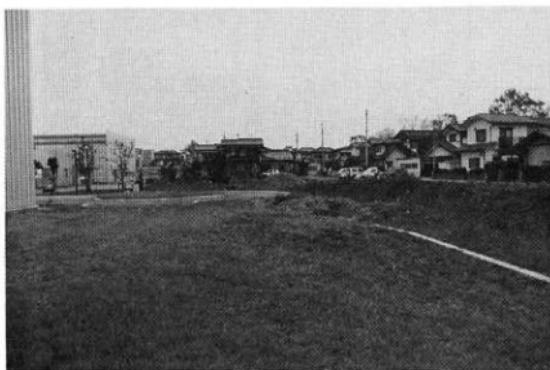


第2トレンチ土層断面（同）



個人住宅建築予定地  
第2トレンチ内ピット  
(八田畠A遺跡)

図版 IV



公園建設予定地  
近景（メ木遺跡）



第4トレンチ（同）



第1トレンチ（同）



個人住宅建築予定地  
(藤塚遺跡)

# 報告書抄録

| ふりがな          | ちようないいせきしきつちょうさほうこく                           |                    |                  |                   |                       |                        |                         |  |  |  |  |  |
|---------------|---|--------------------|------------------|-------------------|-----------------------|------------------------|-------------------------|--|--|--|--|--|
| 書名            | 町内遺跡試掘調査報告Ⅲ                                   |                    |                  |                   |                       |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 副書名           | 狐塚古墳試掘調査他                                     |                    |                  |                   |                       |                        |                         |  |  |  |  |  |
| シリーズ名         | 柳形町文化財調査報告                                    |                    |                  | シリーズ番号            | No. 18                |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 編著者名          | 清水 博  |                    |                  |                   |                       |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 発行者           | 柳形町教育委員会                                      |                    |                  |                   |                       |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 編集機関          | 柳形町教育委員会                                      |                    |                  |                   |                       |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 所在地           | 〒400-0306 山梨県中巨摩郡柳形町小笠原397-1 TEL 0552-82-0108 |                    |                  |                   |                       |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 発行年月日         | 1998年3月31日                                    |                    |                  |                   |                       |                        |                         |  |  |  |  |  |
| ふりがな<br>所取遺跡名 | ふりがな<br>所<br>在<br>地                           | コード<br>市町村<br>道路番号 | 北緯               | 東經                | 調査機関                  | 調査面積<br>m <sup>2</sup> | 調査原因                    |  |  |  |  |  |
| 往還東B遺跡        | 山梨県中巨摩郡<br>柳形町桃園字雨ヶ久保                         | 193909             | 46<br>36分<br>58秒 | 35度<br>28分<br>12秒 | 138度<br>~<br>19970418 | 260                    | 出店予定地内<br>試掘調査          |  |  |  |  |  |
| 藤塚遺跡          | 山梨県中巨摩郡<br>柳形町桃園字東原                           | 193909             | 67<br>51秒        | 35度<br>27分<br>55秒 | 138度<br>~<br>19970618 | 8                      | 個人住宅建設に<br>伴う試掘調査       |  |  |  |  |  |
| 八田畠A遺跡        | 山梨県中巨摩郡<br>柳形町小笠原字八田畠                         | 193909             | 66<br>53秒        | 35度<br>28分<br>4秒  | 138度<br>~<br>19970829 | 16                     | 個人住宅建設に<br>伴う試掘調査       |  |  |  |  |  |
| ゾ木遺跡          | 山梨県中巨摩郡<br>柳形町下市之瀬字ゾ木                         | 193909             | 203<br>40秒       | 35度<br>27分<br>53秒 | 138度<br>~<br>19971128 | 187                    | 公園整備事業に<br>伴う試掘調査       |  |  |  |  |  |
| 竪塚古墳          | 山梨県中巨摩郡<br>柳形町下市之瀬字切付                         | 193909             | 192<br>56秒       | 35度<br>27分<br>43秒 | 138度<br>~<br>19971224 | 148                    | 第1次学術調査<br>(基礎的資料を得るため) |  |  |  |  |  |
| ふりがな<br>所取遺跡名 | 種別  | 上な時代               | 主な遺構             |                   | 主な遺物                  | 特記事項                   |                         |  |  |  |  |  |
| 往還東B遺跡        | なし  | なし                 | なし               |                   | なし                    |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 藤塚遺跡          | なし  | なし                 | なし               |                   | なし                    |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 八田畠A遺跡        | 散布地   | 江戸                 | ピット              |                   | 土器片                   |                        |                         |  |  |  |  |  |
| ゾ木遺跡          | ・   | 平安                 | なし               |                   | 土器片・鉄器                |                        |                         |  |  |  |  |  |
| 竪塚古墳          | 古墳  | 古墳                 | 古墳               |                   | 近世陶器                  |                        |                         |  |  |  |  |  |

柳形町文化財調査報告 No.—18

## 町内遺跡試掘調査報告Ⅲ

---

山梨県中巨摩郡柳形町町内遺跡試掘調査報告書

1998年 3月20日 印刷

1998年 3月31日 発行

編集・発行 柳形町教育委員会

山梨県中巨摩郡柳形町小笠原397-1

印 刷 野 中 印 刷

山梨県中巨摩郡柳形町小笠原

---

